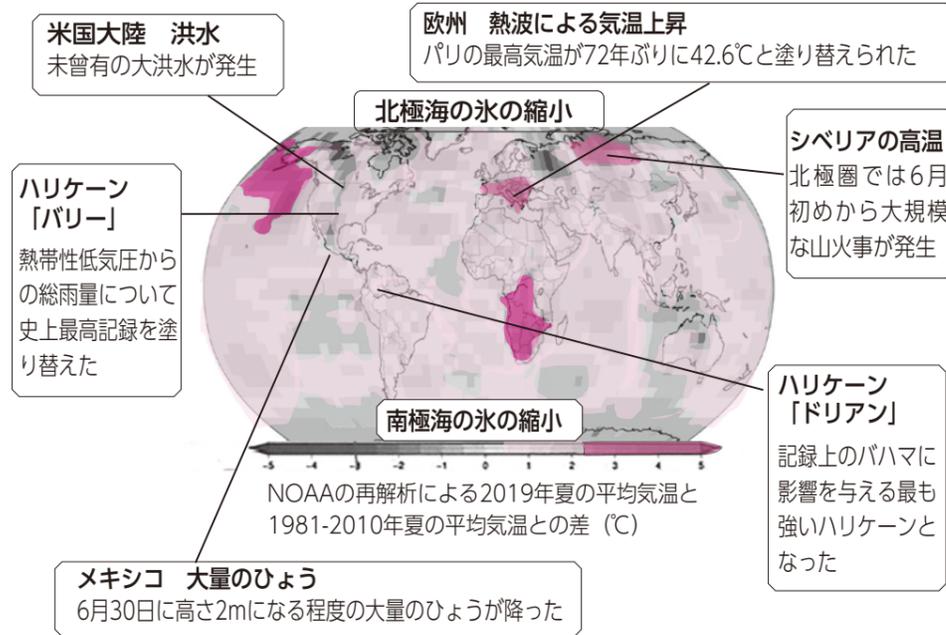


『環境にやさしい行動』のスヌメ vol.1
地球温暖化対策のため、環境の保全を意識した『環境にやさしい行動』を紹介します。

今、地球が危ない 環境を守るのはわたしたちです!!

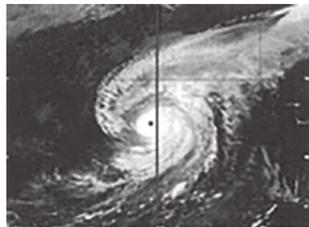
2019年の異常気象



日本を襲う大型台風

令和元年 台風15号
千葉県を中心に、大規模な停電および断水、通信障害等が発生
神奈川県横浜市で、東京湾に面した護岸が高波により崩壊

令和元年 台風19号
関東地域を中心に、堤防決壊、土砂災害発生



令和元年度台風19号
(ひまわり8号赤外画像、気象庁提供)
《出典：環境省》

今、日本でも世界でも、記録的な高温や台風の巨大化、豪雨や洪水など、気候変動の影響が現れており、長期的な地球温暖化の傾向と関係しているという見解が示されています。

環境は、限られた資源 『快適に暮らし続けられるまち』を目指して

町では、環境に限られた資源であることを深く認識し、町、事業者、町民が相互に協力し合い、人と自然が健全に共生できるまちづくりの実現を目指し、平成10年4月に金ケ崎町田園環境基本条例を制定し、町における環境の保全及び創造についての基本理念や町、事業者、町民の責務などについて定めました。

また、町民が健康で文化的な生活を営むことができる健全で恵み豊かな環境を確保するとともに、これを将来の世代に継承することを新たに決意し、平成11年3月に「田園環境保全の町」とすることを宣言しています。

平成28年4月には、金ケ崎町全体で環境に配慮した取り組みを効果的に実施していくため、環境行動指針「ちょうみんグリーンアクション」を策定しました。

町民グリーンアクションのめざす姿

温室効果ガス排出量を削減し、ごみの少ないまちの実現

目標 温室効果ガス排出量を2025年度までに町民1人あたり30%減らそう

グリーンアクション

役場 ↔ 町民 ↔ 事業者

地球温暖化対策のため「町民一人ひとり」「事業者」「役場」などの各主体が、共通の認識を持ち効果的に実践していくものです。

〇5つのグリーンアクション

アクション1 家庭やオフィスの省エネルギーや省資源をすすめよう

アクション2 町民一人1日 70g (10%) のごみを減らそう

アクション3 清掃活動に参加しよう

アクション4 自然とふれあい、水を大切に使い動植物をいっくしもう

アクション5 資源を町内で循環させる地産地消をすすめよう

なお、環境行動方針「ちょうみんグリーンアクション」の全文は、町ホームページに掲載しております。

学 町内小学校で入学式 校生活をスタート

町内5つの小学校の入学式は4月8日に行われました。本年度は、金ケ崎小46人、第一小19人、永岡小12人、三ケ尻小22人、西小14人の合計113人の新入生が入学。小野寺海翔くん(金ケ崎小)は、「テストで100点を取れるようにがんばりたい」と元気いっぱい答えてくれました。



元気に行進する新入生

入学式(金ケ崎小学校)

厚 障害者自立更生等厚生労働大臣表彰 生労働大臣表彰受賞

祈禱師の菊地弘龍さんは、障害者自立更生等厚生労働大臣表彰を受賞しました。菊地さんは身体障害を克服し、長きに渡り祈禱師としてご活躍されました。その行いは他の障害者の自立更生における模範となり、この度の受賞に至りました。菊地さんは「祈禱師をしていると、たくさんの人と出会える。特に自分より年上の先輩方と話せるのが良い」と話していました。



表彰状を受け取り笑顔みせる菊地さん

通 岩手県水沢地方交通安全協会金ケ崎分会 学帽子を寄贈

岩手県水沢地方交通安全協会金ケ崎分会は4月3日、町内幼稚園・小学校と希望のあった保育園に対し、新入学生通学帽子計177個とキーホルダーを寄贈しました。同分会上松東治会長は「新入生は金ケ崎の宝、黄色い帽子をかぶって交通事故に遭わないように気を付けてほしい」と話していました。



通学帽子を千葉教育長に手渡す金ケ崎分会の皆さん

鍵 春の全国交通安全運動・地域安全運動出動式 かけモデル地区へ

春の全国交通安全運動・地域安全運動出動式は4月6日、町役場で行われました。式では、町交通指導隊高橋長副隊長、町防犯隊高橋正人隊長がそれぞれ決意表明を行いました。

式の終了後、奥州警察署より、町民が一体となって鍵かけモデル運動を行い、模範となったことから、感謝状が贈呈され、新年度も引き続きモデル地区として指定されました。



奥州警察署菊地署長から感謝状を受け取る高橋町長

し 森山総合公園野球場ネーミングライツ調印式・除幕式 しんきん森山スタジアムへ

森山総合公園野球場のネーミングライツ契約調印式・愛称看板披露除幕式が4月1日に行われました。今後は「しんきん森山スタジアム」と表記されます。水沢信用金庫及川和男理事長は、「皆さまに親しみやすい愛称にさせていただいた。大リーガーが育った環境で子どもたちが野球をできるのは素晴らしいこと。第2の雄星選手、大谷選手が育ってほしい」と笑顔で話していました。



しんきん森山スタジアム愛称看板披露の瞬間